



高校生のための九州大学 医学部 医学科紹介

Department of Medicine, Kyushu University School of Medicine

2024



「医師・医学研究者を目指す皆さんへ」

九州大学医学部医学科長

赤 司 浩 一



九州大学医学部は、1903年(明治36年)にこの「^{まいだし}馬出」の地に京都帝国大学福岡医科大学として開設され、1911年(明治44年)には九州帝国大学医科大学となり、その後いくつかの名称変更等を経て、現在に至っています。

この間、九州大学医学部は一貫して、人類の健康と福祉の増進に貢献する医師と医学研究者の育成をその使命としてきました。その結果、世界の医学界に誇る数々の研究業績とともに、我が国のみならず世界の医学・医療を支える幾多の人材を輩出しています。

医学は、生命の成り立ち、病態、病因に迫っていくいわゆる「基礎医学」という分野と、治療法開発と患者さんを実際に治療する、いわゆる「臨床医学」の両輪が協力して成り立っています。医師の道には、医学の知識だけではなく、人間性や思考力、倫理観の醸成も重要で、患者さんとの向き合い、人々の喜びや悲しみに寄り添い、優しさや尊厳を持って接すること、さらに看護師、医療技術者、薬剤師など、多くの専門家と協力することが求められます。したがってコミュニケーション能力や協働力を磨くことも大切です。

医学部医学科のカリキュラムは、入学初年次は教養や一般的な常識を培うため、1年間伊都キャンパスで学び、2年目からは、学びの場所を病院キャンパスに移して、本格的な医学・医療の勉強を開始することとなります。

- 基礎医学：医学の基礎となる科目を学びます。解剖学、生理学、病理学、薬理学など、人体の構造や機能、疾患のメカニズムについて学びます。
- 臨床医学：疾患の診断と治療について学びます。内科学、外科学、小児科学、産婦人科学など、さまざまな臨床科目をカバーします。症例の解析や臨床実習を通じて、実際の医療現場での経験を積む機会も提供されます。
- 公衆衛生学：予防医学や集団の健康管理について学びます。感染症対策、健康政策、エビデンスオロジーなど、社会全体の健康を促進するための知識とスキルを習得します。

○医療倫理・法学：医療倫理や医療法に関する教育も重要な一部です。患者の権利や医療倫理に基づいた医療の実践方法を学びます。

また、臨床実習は、主として全国の大学病院の中でも最大級の規模を誇り、多くの高度先進医療技術の備わっている九州大学病院で行われ、地域の医療機関や保健所への派遣も合わせて、実践的な経験を得ることができます。

更に九州大学では、一般的な医学部の課程に加えて数年間大学院で研究を行うことにより、卒業時にMD(医学士)とPhD(医学博士)の両方を取得することができる「MD-PhDコース制度」を設定しています。本コースを選択した学生は医学科4年次を修了した時点でいったん休学し、そのまま大学院博士課程(原則4年間)に進学します。そこで研究を行い、医学博士(PhD)を授与された後、医学科の5年生に復学し、残りの課程を修了して医学科を卒業することになります。もちろん、医学科を卒業し、医師国家試験を受けた後に研修医を経ないで大学院博士課程に入学する方や、医学科卒業後に研修医そして専門医として3～5年ほど臨床修練を行った後に大学院博士課程に入学される方もいます。MD-PhDコースを選択した人は、将来そのまま研究者になることも可能であり、また基礎医学研究で培った深い知識やものの見方を活用して臨床医学研究や医療に役立てることもできます。

九州大学医学部には皆さんの将来の夢を実現するための環境が整っています。医学部での学びは決して容易ではありませんが、その分、やりがいのあることばかりです。皆さんには九州大学を目指して勉学に励んで頂き、入学後は私達と一緒に、新しい医学を切り開いていきましょう。

沿革／History —おもな年表—

明治36年 4月 1日	京都帝国大学福岡医科大学開設 解剖学、内科学、外科学、眼科学各1講座開設
〃 36年 9月11日	生理学、医化学各1講座開設
〃 36年 9月14日	第1回入学宣誓式举行
〃 36年 9月22日	第1回教授会開催
〃 37年 5月20日	解剖学、外科学を2講座に増設、病理学、小児科学、衛生学各1講座を開設
〃 38年 3月22日	内科学を2講座に増設、薬物学、婦人科学産科学各1講座開設
〃 38年11月13日	第1回解剖体祭を万行寺にて執行
〃 39年 4月23日	皮膚病学微生物学、法医学、精神病学、耳鼻咽喉科学各1講座開設
〃 40年 5月 9日	病理学が2講座となる
〃 40年12月12日	第1回卒業証書授与式举行
〃 41年 5月 1日	解剖学が3講座となる
〃 42年 5月24日	内科学が3講座となり整形外科学講座開設
〃 44年 4月 1日	京都帝国大学福岡医科大学が九州帝国大学医科大学となる
〃 45年 5月29日	衛生学が2講座となる
大正 7年 6月18日	生理学が2講座となる
〃 8年 4月 1日	九州帝国大学医科大学は九州帝国大学医学部となる
〃 11年 5月29日	歯科学講座開設
〃 12年 1月19日	衛生学2講座は衛生学講座と細菌学講座とに分立
〃 13年 7月 7日	皮膚病学微生物学講座は皮膚科学泌尿器科学講座の2講座となる
昭和 2年10月 7日	歯科学は歯科学口腔外科学講座となる
〃 3年10月24日	創立25周年記念祝典举行
〃 4年12月17日	放射線治療学講座開設
〃 11年 3月27日	薬物学講座は薬理学講座と改称、皮膚科学泌尿器科学講座は皮膚科学講座と泌尿器科学講座に分立
〃 14年 5月13日	臨時附属医学専門部設置
〃 15年12月10日	民族衛生学・植民衛生学講座開設
〃 17年 9月23日	臨時附属医学専門部第1回卒業式举行
〃 19年 3月31日	臨時附属医学専門部は附属医学専門部と改称
〃 19年 5月10日	熱帯伝染病研究所設立
〃 20年 4月 1日	環境医学研究所設立
〃 21年 2月14日	熱帯伝染病研究所を風土病研究所と改称
〃 21年 3月 1日	民族衛生学・植民衛生学講座は民族衛生学講座と改称
〃 22年10月 1日	九州帝国大学医学部は九州大学医学部となる
〃 24年12月 1日	放射線治療学講座を放射線医学講座と改称
〃 25年 4月 1日	薬学科設置3講座が開設
〃 26年 4月 1日	衛生学講座と民族衛生学講座は衛生学第1講座、衛生学第2講座となる 寄生虫学講座開設、薬学科が5講座となる
〃 27年 4月 1日	結核研究施設、助産婦学校、看護学校設置、薬学科が7講座となる、附属医学専門部廃止
〃 28年 4月 1日	精神病学講座は神経精神医学講座と改称
〃 28年 5月 3日	医学部創立50周年記念式典举行
〃 29年 4月 1日	診療工エックス線技師学校設置
〃 29年 9月 9日	衛生学第1講座は衛生学講座に衛生学第2講座は公衆衛生学講座と改称
〃 30年 4月 1日	九州大学大学院医学研究科設置
〃 30年10月31日	癌研究室開設
〃 31年 7月16日	九州大学附属図書館に医学部分館設置
〃 32年 4月 1日	がん研究施設設置、化学部門開設
〃 33年 4月 1日	心臓血管研究施設設置、内科部門開設
〃 35年 4月 1日	結核研究施設は胸部疾患研究施設にがん研究施設が癌研究施設と改称、衛生検査技師学校設置
〃 36年 4月 1日	精神身体医学研究施設設置、癌研究施設に病理部門開設
〃 37年 4月 1日	麻酔学講座開設
〃 38年 4月 1日	精神身体医学研究施設廃止、精神身体医学講座、放射線基礎医学講座開設、放射線医学講座は放射線科学講座と改称、脳神経病研究施設設置、内科部門開設
〃 39年 4月 1日	薬学科を薬学部薬学科に振替

昭和41年 4月 1日	医化学講座は生化学第1講座となり、第2講座開設、脳神経病研究施設に外科部門開設
〃 42年 4月 1日	癌研究施設に細胞部門開設
〃 42年 6月 1日	歯科学口腔外科学講座は口腔外科学として歯学部へ振替
〃 47年 3月31日	衛生検査技師学校廃止
〃 48年 3月31日	看護学校及び診療放射線技師学校廃止
〃 48年 4月12日	ウイルス学講座開設、心臓血管研究施設に外科部門開設、動物実験施設設置
〃 48年11月24日	創立70周年記念式典挙行
〃 49年 4月11日	脳神経病研究施設に病理部門開設
〃 51年 4月 1日	癌研究施設に免疫部門開設
〃 52年 4月18日	臨床薬理学講座開設
〃 53年 3月31日	助産婦学校廃止
〃 53年11月25日	創立75周年記念式典挙行
〃 54年 4月 1日	小児外科学講座開設
〃 56年 4月 1日	遺伝情報実験施設設置
〃 57年 4月 1日	脳神経病研究施設に生理部門開設
〃 57年 4月 1日	癌研究施設は生体防御医学研究所に改組のため廃止
〃 58年11月 5日	創立80周年記念式典挙行
〃 60年 4月 1日	遺伝情報実験施設は学内共同利用施設となる
〃 61年 4月 1日	医学研究科を医学系研究科に拡充改組、分子医学系専攻博士課程及び分子生命科学系専攻博士課程（後期3年の課程のみの博士課程）増設
〃 62年 5月21日	心臓血管研究施設に臨床細胞科学部門開設
〃 63年 4月 8日	統合教育研究実習センター設置
平成元年 5月29日	麻酔学講座は麻酔・蘇生学講座と改称
〃 元年 5月29日	脳神経病研究施設の生理部門を廃止し、同施設に臨床神経生理部門開設
〃 6年 4月 1日	臨床検査医学講座開設
〃 7年 5月29日	医学系研究科社会医学系専攻医療システム学講座開設
〃 9年 4月 1日	心臓血管研究施設の臨床細胞科学部門を廃止し、同施設に分子細胞情報学部門開設 医学系研究科の再編成により、機能制御医学専攻・生殖発達医学専攻開設 （大学院整備（重点化）3か年計画の初年次）
〃 10年 4月 8日	医学系研究科の再編成により、病態医学専攻・臓器機能医学専攻開設 （大学院整備（重点化）3か年計画の2年次）
〃 11年 4月 1日	医学系研究科の再編により、分子常態医学専攻・環境社会医学専攻開設 （大学院整備（重点化）3か年計画完了）
〃 12年 4月 1日	胸部疾患研究施設・心臓血管研究施設・脳神経病研究施設は、医学系研究科の附属研究施設となる 医学系研究科を廃止し、医学系学府（大学院教育組織）及び医学研究院（大学院研究組織）を設置 胸部疾患研究施設・心臓血管研究施設・脳神経病研究施設・動物実験施設は、医学研究院の附属研究施設となる
〃 13年 4月 1日	大学院医学研究院環境社会医学部門に医療経営・管理学講座が設置され、大学院医学系学府に医療経営・管理学専攻修士課程（専門大学院）が設置された
〃 14年10月 1日	医学部に保健学科が設置され、医療技術短期大学部は、同部学生が在学する間存続することとなった
〃 15年 3月 8日	創立100周年記念式典挙行
〃 15年 4月 1日	医学研究院の8部門を基礎医学部門、先端医療医学部門、臨床医学部門、分子生命科学系部門及び医学教育学部門の5部門に、23講座を11講座に再編 大学院医学系学府に医科学専攻（修士課程）が設置された 医学研究院附属統合教育研究実習センターを廃止し、全学共同教育研究施設として医療系統合教育研究センターを設置 大学院システム生命科学府の設置に伴い、大学院医学系学府分子生命科学系専攻は、同専攻学生が在学する間存続することとなった 学校教育法の改正により、大学院医学系学府医療経営・管理学専攻修士課程（専門大学院）は、同（専門職大学院）となる
〃 16年 4月 1日	九州大学は国立大学法人九州大学が設置する大学となった
〃 19年 4月 1日	医学部に生命科学科を設置 大学院医学系学府に保健学専攻（修士課程）を設置
〃 20年 4月 1日	大学院医学系学府博士課程を1専攻に再編
〃 21年 4月 1日	大学院医学系学府に保健学専攻（博士後期課程）を設置
〃 23年 4月 1日	九州大学病院は医学部及び歯学部の附属施設となる
〃 24年 4月 1日	医学研究院に応用幹細胞医科学部門設置 同部門に応用幹細胞医科学講座設置

医学部医学科案内

医学部医学科アドミッションポリシー

求める学生像

医学科では以下の学生を求める。

医師の仕事は、非常に幅広く、基礎の研究者から臨床医まで選択肢も多い中で、最も大切なことは弱い立場の患者さんの味方となり、病気に苦しんでいる患者さんを助けることである。単に受験学力が高いから医学部に入学するのではなく、医師としてあるいは医科学分野の研究者として活躍するに十分な能力と素質をもち、明確な目的意識をもった学生を望んでいる。

人間で最も大切なことは、「生きがいを持ち人間らしく生きること」である。命に直接関係するような病気を持っている患者さんは、ややもすると、この「生きがい」をなくし、生きる喜び、生きる目標を失っている。このような人達に優しい救いの手をさしのべることができる人間味あふれる学生を求めている。

求める学生像と学力3要素との関係

①知識・技能：

高等学校などにおける基礎的教科・科目の履修を通して獲得される知識・技能。加えて、医学・医療における知識・技能の習得ができる基礎的な能力。

②思考力・判断力・表現力などの能力：

多面的に考え、客観的に批判し、自分の言葉で人に伝える資質。医学知識を習得し、臨床に応用するために努力を惜しまない姿勢。

③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度：

医師としてあるいは医科学分野の研究者として活躍することへの強い関心、多様性を尊重する態度、異なる考えに共感する姿勢。多職種と協働して医療を提供しようという意欲。患者・家族から求められている医療を真摯に提供しようとする意欲。新しい医学を創造・発展しようとする意欲。

入学者選抜方法

	①知識・技能	②思考力・判断力・ 表現力などの能力	③主体性を持って多様な 人々と協働して学ぶ態度
一般選抜 (前期)	大学入学共通テスト 個別学力検査	個別学力検査 個別面接	調査書 志望理由書 個別面接

教育理念（教育理念・目標、育成する人材像等）

医学部医学科は、医学に関する知識・技術の教育を基盤にし、医の倫理に徹し、旺盛な探求心を有する医師および医科学研究者を育成することを目的としています。創始以来約100年の伝統に培われた医学科の教育・研究の成果として、世界の医学界に誇る数多くの研究業績があります。またその名声により遠近を問わず広く一般患者に利用されている大学病院は、より高度な医療と社会福祉の実現に向かって全力をはらっています。医師・医学者には自然科学者としての適性が求められる一方、病気と闘う患者に寄り添うよき援助者であることも求められます。さらに医師の判断は患者の人生に大きな影響を与える可能性があります。医学部医学科での教育・研究は、専門性の修得ばかりではなく、広く深く人間についての洞察を重ねることへとつながるものです。

「人の健康と福祉の増進」という医学の使命を達成するための多様な人材を育成することが目的です。



九州大学医学部医学科「使命」

九州大学医学部医学科は、九州大学教育憲章・学術憲章及び基本理念に基づき、人類の健康と福祉の増進のために、将来日本及び世界で貢献できる医師及び医科学研究者の育成を使命とする。

九州大学医学部医学科が育成するのは、社会的使命感と高い倫理観を有し、高度な医学知識・技能を有するのみならず、病氣と闘う患者により添うことのできる、人間性あふれる人材である。

さらに、他者と協働しながら国内外における健康や福祉に関する諸課題の解決に果敢に取り組む姿勢、及び生涯にわたり自ら進んで学ばんとする旺盛な科学的探究心の涵養を目指す。

また、医学・医療を創造できる人材の育成も我々の使命である。

九州大学医学部医学科 ディプロマ・ポリシー

教育の目的

医学部医学科は、医学に関する知識・技術の教育を通して、医の倫理に徹し、旺盛な探究心を有する医師および医科学研究者を育成することを目的とする。創始以来約100年の伝統に培われた医学科の教育・研究の成果として、世界の医学界に誇る数多くの研究業績がある。またその名声により遠近を問わず広く一般患者に利用されている大学病院は、より高度な医療と社会福祉の実現に向かって全力をはらっている。

医師・医学者には自然科学者としての適性が求められる一方、病氣と闘う患者に寄り添うよき援助者であることも求められる。さらに医師の判断は患者の人生に大きな影響を与える可能性がある。医学部医学科での教育・研究は、専門性の修得ばかりではなく、広く深く人間についての洞察を重ねることへとつながる。

「人の健康と福祉の増進」という医学の使命を達成するための多様な人材を育成することが目的であり、本学科所定の課程を修め、下記の学修目標を達成した者に、学士(医学)を授与する。

参照基準

平成28年度医学教育モデル・コア・カリキュラム

「日本医学教育評価機構医学教育分野別評価(2022年度受審)」

● http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/06/28/1383961_01.pdf

● <https://www.jacme.or.jp/>

学修目標(卒業時アウトカム)

A. 主体的な学び・協働

A-1. 生涯学習能力

深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。

A-2. 生涯学習能力

多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。

A-3. 生涯学習能力

医学・医療の発展に寄与するために、絶えず自らを省察し、多職種と連携しながら生涯にわたって学び続けることができる。

A-4. 生涯学習能力

英語をはじめとした異なる言語で、医学・医療を理解し、自らの考えを表現できる。

B. 知識・理解

B-1. 医学知識

生体の構造と機能の基本原則を理解し、説明できる。

B-2. 医学知識

広く生命現象の解明ならびに疾患の病因・病理・病態の解明に必要な研究について理解し、説明できる。

B-3. 医学知識

個体の反応、病因と病態およびその診断と治療について理解し、説明できる。

C. 能力

C-1. 診療技術

指導医の指導の下で基本的な診療（医療面接、臨床推論、診療録記載、臨床判断、身体診察、基本的臨床手技）を実施できる。

C-2-1. 科学的探究心

他者の医学・生物学的プレゼンテーションを理解し、科学的・批判的に検討し、討論をすることができる。

C-2-2. 科学的探究心

医学知見を批判的に吟味することができる。

C-2-3. 科学的探究心

医学・医療をさらに進歩させるために、医学研究に取り組むことができる。

D. 実践（実践的な場面での知識・理解の活用）

D-1. 医療安全

システムとしての安全文化を理解し、指導医の指導の下に患者安全策を実施できる。

D-2. チーム医療

（A-2を更に発展させて、）患者中心の医療を実践するため、診療チームの一員として参加できる。

D-3. コミュニケーション

患者・家族と心理・社会的背景に配慮しながら良好な関係を築くことができる。

D-4. 地域・国際社会への貢献

福祉・介護・保健・医療制度の現状も含めて社会と医学の関わりを理解し、説明できる。

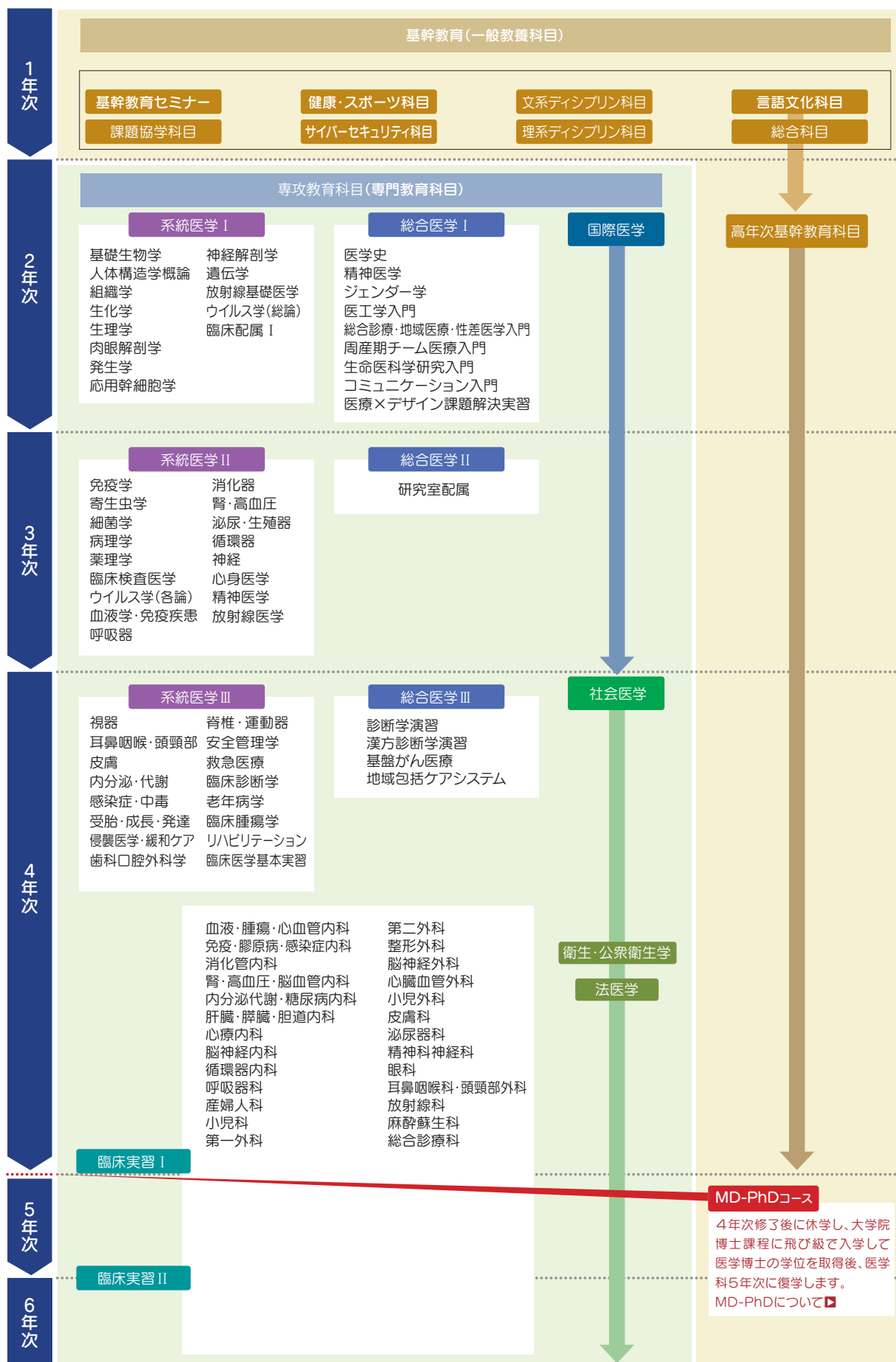
D-5. 地域・国際社会への貢献

地域医療の現状及び国際的な保健・医療の課題を理解し、貢献する意欲を持つことができる。

D-6. 医師・研究者としての使命感と倫理観

社会で求められる医師・研究者としての役割・責任を自覚し、高い倫理観を持って日々の学習・実践に臨むことができる。

カリキュラム



※ユニット名は変更になることがあります。

カリキュラム概要

系統医学Ⅰ～Ⅲ

医学・医療の長い歴史で培われた、多くの場面で必要となる最新の知識や技能、態度を学びます。必修制を採用しています。



生化学実習

総合医学Ⅰ～Ⅲ

地域社会や国際社会、あるいは医学教育の変化に伴い、ある場面で特に必要となる知識や技能、態度を学びます。主に選択必修制を採用しています。



患者さんの接し方

臨床実習Ⅰ・Ⅱ

それまでに学んだ知識、技能、態度を活かして、大学病院あるいは地域や海外の医療機関で、本物の患者さんや医療スタッフとのやり取りをととして、医師としてのプロフェッショナリズムを実践的に学びます。



臨床実習

社会医学

医学・医療における倫理学や法学をはじめとする人文社会科学系の側面、さらに統計学や情報学などの理学・工学系の側面を学びます。

国際医学

医学・医療の現場に必要な英語の学習を基盤とし、将来、外国人患者の診療や海外で臨床・医学研究に携わる動機づけのために、海外における医学・医療や国際NGOの活動などについて学びます。



MD-PhDコース

早期に本格的な基礎医学研究を始めたい学生は、4年生修了時に休学し、医学系学府医学専攻博士課程に『飛び級』できます。博士号を取得した後に医学科5年生に復学します。

学 生 / Students

(1) 学生定員及び在籍学生数 Enrollment Limit and Present Number

医 学 部

School of Medicine

(令和6年5月1日現在)

As of May 1st, 2024

	定員及び在籍学生数 Classification	1年 1st year	2年 2nd year	3年 3rd year	4年 4th year	5年 5th year	6年 6th year	合計 Total
医 学 科 Department of Medicine	定 員 Enrollment Limit	105	105	110	110	110	111	651
	在籍学生数 Present Number	113 (30)	121 (29)	114 (34)	123 (27)	116 (20)	103 (24)	690 (164)
生命科学科 Department of Biomedical Science	定 員 Enrollment Limit	12	12	12	12			48
	在籍学生数 Present Number	16 (8)	20 (10)	7 (2)	17 (7)			60 (27)
保健学科 Department of Health Sciences	定 員 Enrollment Limit	134	134	134	134			536
	在籍学生数 Present Number	145 (117)	149 (116)	132 (109)	127 (105)			553 (447)
合 計 Total	定 員 Enrollment Limit	251	251	256	256	110	111	1,241
	在籍学生数 Present Number	274	290	253	267	116	103	1,303

Figures in parentheses indicate the number of female students.

* ()内は女子で内数を示す。

大学院(修士課程)

Graduate School(Master's Course)

(令和6年5月1日現在)

As of May 1st, 2024

専 攻 名 Course	定員及び在籍学生数 Classification	1年 1st year	2年 2nd year	合計 Total
医科学専攻 Master Course in Graduate School of Medical Sciences	定 員 Enrollment Limit	20	20	40
	在籍学生数 Present Number	16	18	34
保健学専攻 Master Course in Graduate School of Medical Sciences, Department of Health Sciences	定 員 Enrollment Limit	27	27	54
	在籍学生数 Present Number	29	28	57
合 計 Total	定 員 Enrollment Limit	47	47	94
	在籍学生数 Present Number	45	46	91

大学院(専門職学位課程)

Graduate School(Master's Course)

(令和6年5月1日現在)

As of May 1st, 2024

専 攻 名 Course	定員及び在籍学生数 Classification	1年 1st year	2年 2nd year	合計 Total
医療経営・管理学専攻 Health Care Administration and Management	定 員 Enrollment Limit	20	20	40
	在籍学生数 Present Number	24	24	48
合 計 Total	定 員 Enrollment Limit	20	20	40
	在籍学生数 Present Number	24	24	48

大学院(博士課程)

Graduate School(Doctor's Course)

(令和6年5月1日現在)

As of May 1st, 2024

専攻名 Course	定員及び在籍学生数 Classification	1年 1st year	2年 2nd year	3年 3rd year	4年 4th year	合計 Total
医学専攻 Department of Medical Sciences	定員 Enrollment Limit	107	107	107	107	428
	在籍学生数 Present Number	119	107	111	137	474
保健学専攻 Doctor Course in Graduate School of Health Sciences	定員 Enrollment Limit	10	10	10	—	30
	在籍学生数 Present Number	8	10	17	—	35
合 計 Total	定員 Enrollment Limit	117	117	117	107	458
	在籍学生数 Present Number	127	117	128	137	509

* 保健学専攻は博士後期課程

(2) 学部卒業生数 Number of Graduates

(令和6年5月1日現在)

As of May 1st, 2024

		令和 3年度 2021	令和 4年度 2022	令和 5年度 2023	平成3年7月1日 以降の卒業生数 (累計) Total (1991.7.1~2024.3.31)
医 学 科 Department of Medicine		112	109	120	3,470
生 命 科 学 科 Department of Biomedical Science		12	12	10	170
保健学科 Department of Health Sciences	看護学専攻 Nursing Course	70	73	65	1,264
	放射線技術科学専攻 Radiological Sciences Course	33	35	33	620
	検査技術科学専攻 Medical Technology Course	37	31	34	629
	小計 Total	140	139	132	2,513
計 Total		264	260	262	6,153

* 医学部保健学科は、平成14年10月に九州大学医療技術短期大学部を改組して設置。第1回卒業生は平成19年3月。
Department of Health Sciences was founded in Oct. 2002. The first graduating class was in March, 2007

医学部(医学士)卒業生

学部(旧制)累計 ————— 4,766名
School of Medicine(Old system)

学部(新制 昭和24年以降入学~平成3年6月30日卒業)累計 3,858名
School of Medicine(New system 1949~1991.6.30)

医学専門部累計 ————— 838名
Medical College

(3) 大学院学位授与者数 Doctorate Conferred

区 分 Classification			令和 3年度 2021	令和 4年度 2022	令和 5年度 2023	平成3年7月1日 以降の学位授与者数 (累計) Total (1991.7.1～2024.3.31)
博士課程 Doctor Course	課程博士 Degrees Awarded	博士(医学) Doctor of Philosophy (Medical Science)	115	98	88	2,701
		博士(理学) Doctor of Science	0	0	0	82
		博士(看護学) Doctor of Nursing	1	1	2	43
		博士(保健学) Doctor of Health Science	3	6	6	69
	論文博士 Theses Accepted	博士(医学) Doctor of Philosophy (Medical Science)	15	14	14	1,259
		博士(理学) Doctor of Science	0	0	0	8
修士課程 Master Course		修士(医科学) Master of Medical Sciences	14	9	14	351
		修士(医療経営・管理学) Master of Public Health				38
		修士(看護学) Master of Nursing	8	9	11	140
		修士(保健学) Master of Health Science	25	25	19	328
専門職学位課程 Master Course		医療経営・管理学修士(専門職) Master of Health Administration	17	17	21	375

博士学位授与者数 旧制学位(福岡医科大学、九州帝国大学、九州大学)累計 5,310名
Doctorate Conferred Old system

新制学位 課程博士(昭和24年以降入学～平成3年6月30日授与)累計 医学博士 891名
New system Degrees Awarded(1949～1991.6.30) 理学博士 16名

論文博士(昭和28年～平成3年6月30日授与)累計 医学博士 1,549名
Theses Accepted(1953～1991.6.30)

令和7年度入学者選抜の基本方針(入学要件、選抜方式、配点等)

入学定員:105名 一般入試(前期日程105名)

(1) 大学入学共通テスト及び個別学力検査等の配点

前期日程

	国 語	地理・歴史	公民	数 学	理 科	外国語	情 報	面 接	計
大学入学共通テスト	100	50		100	100	100	25	—	475
個別学力検査	—	—		250	250	200	—	(注1)	700
計	100	50		350	350	300	25	—	1,175

(2) 個別学力検査実施教科・科目等

前期日程

	数 学	理 科	外国語	面 接
科 目	数 学 I 数 学 II 数 学 III 数 学 A 数 学 B 数 学 C 6科目	物理基礎・物理 化学基礎・化学 2科目	英 語 英語コミュニケーションI,II,III 論理・表現I,II,III 1科目	面 接
配 点	250(150分)	250(150分)	200(120分)	(注1)

(注1) 総合判定の判断資料とします。

国際交流

九州大学医学部では、国際交流も盛んに行われています。

釜山大学校医科大学、仁済大学、慶尚大学とは、学生交流を行っています。

ドイツのグーテンベルク大学や、アメリカのクリーブランドクリニックで臨床実習（クリニカルクラークシップ）を受けることもできます。

また、公益財団法人医学教育振興財団が実施する、イギリスの大学医学部での臨床実習のための短期留学もあります。

人生初の留学を終えて～慶尚大学病院での実習～ 2023年度卒 野方 保孝

2023年5月15日～6月9日まで慶尚大学病院にて病院実習をしてきました。きっと一生大切にしよう学びと経験ができた留学でした。

～実習～

私は韓国と日本の文化的な違いがありそうな領域を見てみたいと考え、精神疾患のエピソードの違いを知りたくて精神科を、家族感情の違いに興味をもって産婦人科を選択し、それぞれ2週間ずつ回りました。

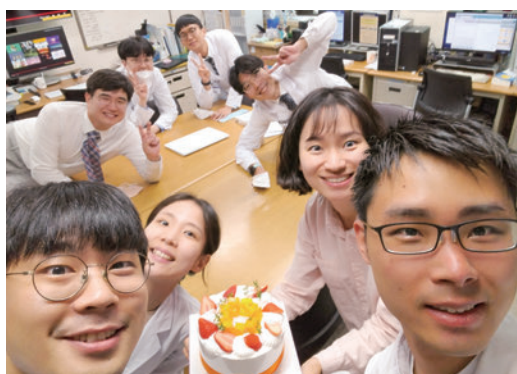
精神科では初めの1週間は韓国の学生と一緒に回りました。精神保健福祉施設において通所されている方に曲当てゲームなどを企画する実習が印象的でした。この診療科は医師の先生が何かをレクチャーすることよりも、学生主体の実習が多かったように感じます。また、後期研修の先生の講義では、治療に正解を出すことが難しい疾患についての議論を提示していただき、非常に興味深かったです。2週目は学生が回っていなかったため、基本的には医局に待機しながら、救急での対応を見学したり、患者さんと遊んだりしました。実習の合間に、精神という不確かなものからどう情報を引き出し、どう扱うかという問題について、方法論を中心に教えて頂きました。患者さんのエピソードの中にも、例えば軍に関わることなど社会的な違いが見られ、とても興味深かったです。また、生い立ちから愛情に飢えているが故の行動をとってしまうような症例も見学しました。その問題の困難さは帰国した今も印象深く残っています。

産婦人科では基本的に手術を見学しました。家族感情について興味があることを伝えると、professorの先生が「11歳の息子がいるから、家で一緒に夕飯食べる？」と誘って下さいました。息子さんと話したり、先生や旦那様からその馴れ初め、お子さんの将来についてなど伺うことができました。韓国と日本では多少アプローチが異なる部分もありますが、親が子に対する気持ちに文化的な差はそこまで感じませんでした。国とか関係なく、家族の数だけ形があるのかもしれません。

最終週に自己紹介と九州大学病院、そして将来の夢についてプレゼンしました。英語でプレゼンするのは初めてでしたが、今回の研修の集大成として、英語で自分を表現することは非常に充実感がありました。

～英語～

今回の留学で最も印象的といいますか、自分の認識に影響を及ぼす強度で感覚を変えられたのは英語でした。英語についてはプログラミングや作曲で情報を集めるときに使うくらいで、これまで意識して勉強をしてきませんでした。しかし実習を始めると、違った文化で育ってきた学生や医師の先生方とお話するのが楽しくて、方言を覚えるように自然に上達していきました。お互い第一言語ではない言葉で、お酒を飲みながらノリやテンポを共有し、互いの深いところにある考えを示し合うのはすごく心地良かったです。制限されたボキャブラリーで、少ない文型しか手持ちにない状態で思考するからこそ、第一言語では濃みがちになっていた思考もすっきり気持ちよく伝えられたのかなと分析しています。口や手を動かして伝え、相手からのフィードバックを受けコミュニケーションへの理解が深まり、それを受けてまた身体を動かして上達していくのが凄く気持ち良かったです。これから他の物事に取り組む際も、こんなフィジカルなアウトプット主体のループの感覚を忘れず、大切にしていきたいと感じています。



～生活～

慶尚大学のある晋州は自然豊かで、美味しいご飯屋さんも多く住みやすい街でした。大きな川が流れており、ランニングしたり、小説を読みに行ったりしていました。学生の皆さんや先生方も頻繁にご飯に連れていってくださり、韓国の食文化について紹介してくれました。精神科の実習中に誕生日を迎えたのですが、サプライズで祝って頂き、大変嬉しかったです。また、バスなどで毎週末旅行に行きました。4回あった週末では順天・麗水(1泊2日)/全州・ソウル(3泊4日)/慶州(1泊2日)/釜山に行きました。学生の皆さんや医師の先生方に聞きながら旅行先を選びました。最終週に1日祝日があったため、同じ実習班の友達が、彼の友達を集めて晋州オリジナルツアーを敢行してくれました。全州やソウルでは外国人用ゲストハウスに泊まり、少しでも上達した英語で、ダンスミュージックについてなど、様々な国の旅行者と会話できたのが楽しかったです。これからワーキングホリデーでオーストラリアに行く同い年の日本の方との出会いも素晴らしく、考え方が似ていたこともあり、帰国後すぐに再会したりしました。

～留学を終えて～

同じ時間であったり、空間であったり、思想であったりを他者とわかちあう素晴らしさを何度も実感できた留学でした。帰国してからも、海外から来日した方とも積極的に交流するようになりましたし、将来的にもっと海外の人とも共有できるようなものを作りたいと思うようになりました。私はもともと海外旅行が好きで、これまでいくつか他の国に行ったことはありましたが、同じ場所にしばらく住むという経験は、それらとは全く違った感傷を僕に与えてくれました。後輩たちにも行くことができるなら、是非行ってみたいと思います。もし何か聞きたいことなどありましたらFacebookなどでご連絡ください。

仁済大学での実習 2023年度卒 西沢 晃一郎

5月15日から6月9日の4週間、釜山にある仁済大学海雲台白病院で臨床実習をさせていただきました。

～実習について～

私は前半2週間を消化器内科、後半2週間を腎臓内科で実習をさせていただきました。

消化器内科の実習では、内視鏡検査、エコーの見学をさせていただきました。先生がすべて英語で説明してくださり、とても勉強になりました。仁済大学の学生も消化器内科を回っていましたが、学生指導される先生が毎日違うということもあって、たまに内視鏡室での見学が一緒になるというくらいで、一緒に実習ができるという感じではありませんでした。ですが、何度が食事に連れて行ってくださったり、遊びに連れていただいたりとても親切にしてくださいました。

腎臓内科での実習内容は、主に回診、外来、カンファ、講義でした。当然、回診、外来、カンファは韓国語で行われており、何を話されているのか分かりませんでしたが、その都度英語で先生が解説してくださり、とても助かりました。講義では韓国における透析の歴史や日本との医療の違いを教えてくださいました。



～学生、先生方との交流～

私は英語を話したことがほとんどなく、ましてや海外に行ったことがなかったのでコミュニケーションに不安を感じていましたが、それは杞憂でした。仁済大学の先生方や学生は日本に興味を持っている方が多く、飲み会などでも話題が尽きることはありませんでした。仁済大学の医学生は、日本の比ではないくらい実習をしており、それはとても刺激になりました。夜の10時、11時まで残って課題をこなしている学生も中にはいました。また学生の英語力の高さには驚かされました。学生は医学用語を英語で学んでいるため、英語に対する抵抗力が少なく、スムーズに英語を話していました。日本の学生と比べ英語に触れる時間に明らかに差があることを感じました。

最後に

初めての留学経験であり、大変有意義な4週間となりました。

今回の韓国クリニカルクラークシップに参加する機会を頂けたこと、関わってくださった皆様に感謝申し上げます。



課外活動

体育系、文化系ともに、医学部の多くの学生がサークル活動に参加しています。
サークルで友人関係を広げることで、学生生活をより充実したものにしています。

医学部学生サークル一覧

空手道部

漢方医学研究会

弓道部

軽音楽部

KLSA

剣道部

硬式テニス部

ゴルフ部

サッカー部

柔道部

準硬式野球部

水泳部

ソフトテニス部

卓球部

熱帯医学研究会

バスケットボール部

バドミントン部

バレーボール部

フットサル部

ラグビー部

陸上競技部

情報研

ウェイトトレーニング部

ハンドボール部

ダンス部

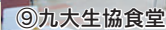
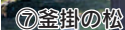
ドッジボール部

数理医学研究会

馬出美術部



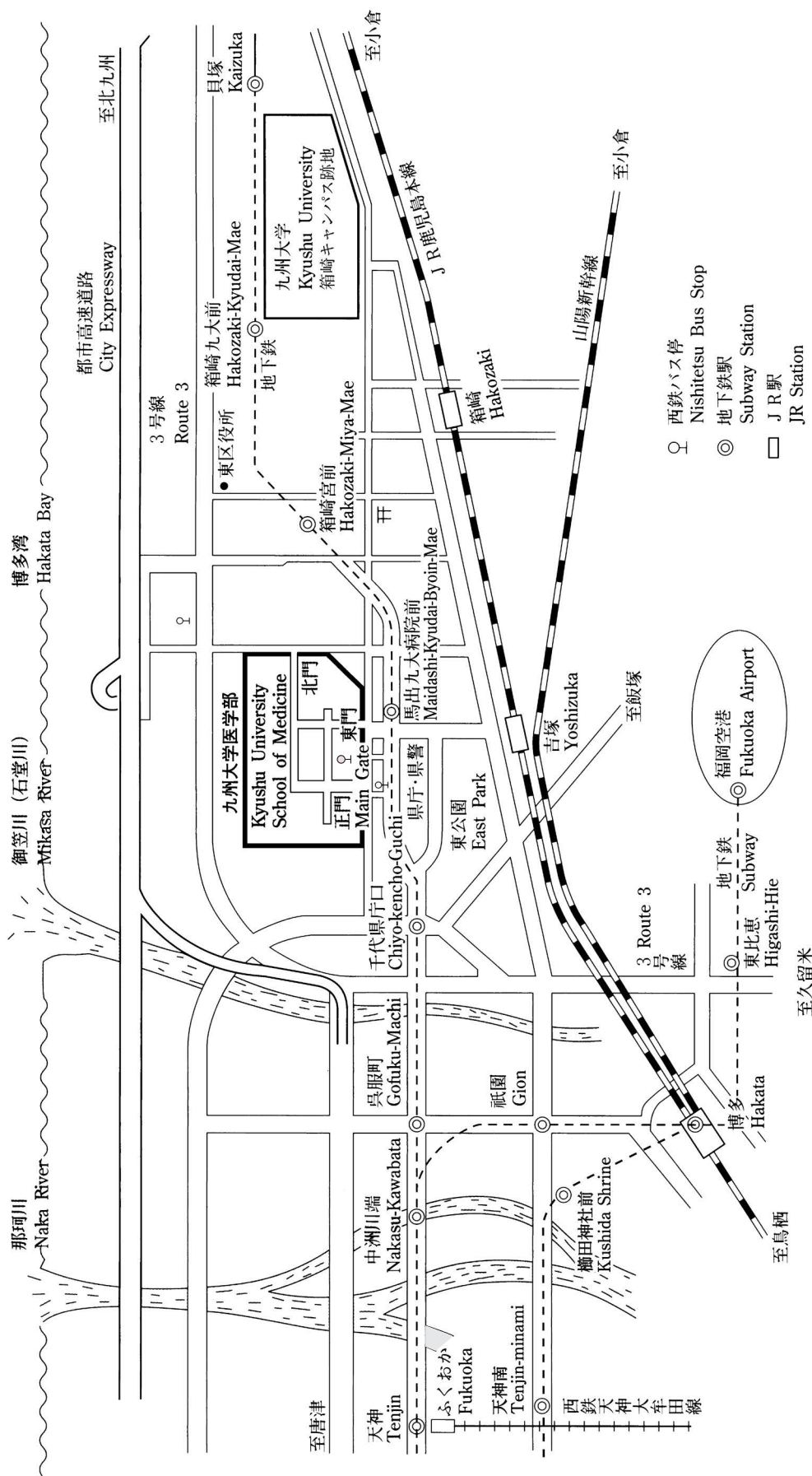
建物配置図 CAMPUS MAP



所在地略図 AREA MAP

医学部医学科、生命科学科

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1番1号 092-642-6020 FAX. 092-642-6189
3-1-1 Maidashi, Higashi-ku, Fukuoka City 812-8582 <http://www.med.kyushu-u.ac.jp/>



○ 博多駅から地下鉄（中洲川端駅で乗り替え）で約10分

Subway service from Hakata Station to Maidashi-Kyudai-Byoin-Mae is a 10 minute ride, but, necessary to change trains at Nakasu-Kawabata on the way

○ 博多駅から西鉄バス（系統番号10番九大前又は吉塚営業所行き）で約15分

Nishitetsu bus service, No.10 Kyudai-Mae' or Yoshizuka-Eigyosho-Yuki', from Hakata Station to Kencho-Kyudai-Mae is a 15 minute ride

○ 福岡空港からタクシーで約20分

20 minute taxi ride from Fukuoka Airport

○ 福岡インターチェンジから約20分

20 minute car ride from Fukuoka Interchange



Kyushu University
School of Medicine
Department of Medicine

九州大学医学部医学科ホームページ
<https://www.mdc.med.kyushu-u.ac.jp/>

